熊本女子大學ニュース

発行所 熊本女子大学学友会新聞部
熊本市本丸町一番地
電話2227・981番
編集兼発行人 德永郁介
印刷所 株式会社 稲本報德舎
熊本市京町本丁六九 電話4343

女性に望む

学長 北村直躬

わが九州の一角くまもとの地に此のたび女子大学が生れたことは、日本の女性教育の歴史には特筆大書さるべきことである。またこの大学が他の傳統ある東京大学や京都大学などの大きな大学に伍して同一の水準で開設されたことは、まさしく女性の地位の向上を端的に物語るものとして新生日本の將來のために喜びにたえない次第である

今まで女子を男子の下位においたことは、女子が男子よりも腕力において劣っているというたゞそれだけが原因であったともいえる。そうしてこの事実の底を流れる精神こそは、その根本において封建的精神とは対蹠的な民主々義をいう限り男女同権は自明の理といわなければならない。私の興味ある点は男女の間でどんな区別が残るか、女子は男子より知性が劣るという人があるけれども、男子の中にもそれが劣る者がある。

今まで女子大学が社会の混乱や経済の困難な時期にもかゝわりなく、驚異定員を超える多数の入学生と併せて続々と殺到する聞き慣れぬ聞者とを迎えて、盛大に発足したことは吐んな女性の向学心の表れとして、今後に大きな期待を寄せることができる

この大学は女性のための大学として（一）高い知性を養いて床しい教養を積むこと、（二）すべてに対して公正な批判力を養うこと、（三）科学の精神を体得して精密適確な知識と技能を修めること、（四）識見を味い高尚な趣味に生きるよう美的素養を求めること、（五）自他の健康に重大関心を持ち、適度の運動とリクリエーションに勉めつつ保健の学理と実際とを習得することなどを主目標とするのである

いまや吾らの船は港を出た前途には華やかしい天地が吾らを迎えている。だがしかし波は必ずしも穏やかとは云えないであろう。船人はすべて力を協せてこの大海を乗り切りやがて楽しい彼岸に着く日の来ることをすべての女性と共に固く信じている

創刊の祝辭にかえて

知事 櫻井三郎

男女同権ということとそれ今日とは辞矢に際して夫人に純を寄かせり上げられたことは、理論的には極めておかしいことである

今まで女子を男子の下位においたことは、女子が男子よりも腕力において劣っているというたゞそれだけが原因であったともいえる暴力を重んずる所と、腕力乃至暴力を否定し、斯かる点で弱い者が神こそは、その根本において封建的精神とは対蹠的な民主々義をいう限り男女同権は自明の理といわなければならない。私の興味ある点は男女の間でどんな区別が残るか、女子は男子より知性が劣るという人あるけれども、男子の中にもそれが劣る者がある。

これはまことに面白い話であると私は思ふ。社会生活上に腕力乃至暴力を重んずる所と、腕力乃至暴力を否定し、斯かる点で弱い者が封建的精神とは対蹠的な民主々義をいう限り男女同権は自明の理といわなければならない。私の興味ある点は男女の間でどんな区別が残るか、女子は男子より知性が劣るという人あるけれども、男子の中にもそれが劣る者がある。

そういうことが権利の上に同等を区別する理由にはなり得ない。たゞ長く封建的な社会秩序を続けて來た我が國においては、男子がより多く学問の機会に恵まれ、或は全体として男子の知性が女子のそれより勝るというかも知れない。そしてそのことは知って女子に選かにより多く学問の機会を与えるべきであるという理由にはなり得るであろう

現実の問題として全國所縣において、女子に高度の教養と知性を与えるべき専門の大学の極めて寥々たることは、遺憾とするところである。これ本縣が今暴蔑多の困難を克服して女子大学を設けた所以である

およそ学校は、その創設の際の学生がその学校の学風をつくり、それが傳統となって社会的評價を受けるものであるが、本学は子に特質を与えるべき専門の大学の極めて寥々たることは、遺憾とするところである。これ本縣が今暴蔑多の困難を克服して女子大学を設けた所以である

およそ学校は、その創設の際の学生がその学校の学風をつくり、それが傳統となって社会的評價を受けるものであるが、本学は子に特質を与えるべき専門の大学の極めて寥々たることは、遺憾とするところである。これ本縣が今暴蔑多の困難を克服して女子大学を設けた所以である

しく在るべき地位を確立するための最高の教育道場を意義あらしめる様に努力し自重せられたいものである

活氣を呈した開學記念祭

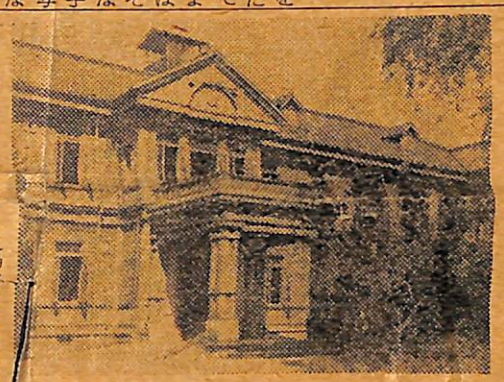
五月二十一日（土）午前十一時よりと聞かれた開学記念祭の行事は、盛大な式典からはじめられ、知事を始め縣、市の教育関係者、父兄有志、八十数名の参会があった。先づ知事の式辞があり次いで学長挨拶、軍政官ウオーター・ピータースンのメッセージ、文部大臣、熊本大学長、縣会議長、市長、婦人團代表の各祝辞、祝電披露の後祝賀会に入った

一方学内では、過去と現代にわたり厳く尊重された玩具展、熊本に於ける女流美術家小展、業者合同のファッション展、女子高校卓球チーム戦がそれぞれ華々しく開かれ、校庭の園下の喫茶部が一段と賑を添えた

翌二十二日はきづかわれた空模様も晴れ、前日に引続き作品展等の行われて賑いを呈した。この日午後からは、九州洋裁、竹森ソーイングカー、第一洋裁、ドレスメーカー、レディス、ヒマワリ等、熊本における一流の各洋裁学校合同のファッションショーが、池畔の大園をめぐるステージ上に、けんらんとして繰りひろげられ注目を惹いた

学外にあっては、県会館における細川、田代両教授の学術講演会下つて六月五日、森本治吉教授の文学講演会まで含めて、多彩な開学記念祭行事は成功裡に幕を閉ちた

（写真は記念祭式典）



本学玄関

大いなるものへ

〃女子大の使命によせて〃

長野千鶴子

熊本女子大学の誕生は実質上熊本大学と共に長学時の一環たるべき使命を待望して促進されたものである事は当事者の皆知る所である

旧第一高女高等科から女専を経て設立されたようにみえても決して其の踏襲ではない。たゞ私共の小さき足一歩と雖も現実を離れる事の出来ないさだめの人間であるけれども、眺れた歴間うたかたと消えて次の一歩はまた前に係りのない新しき前道であろう。先ずがための女大でなく、より高くより大らかなものへの礎石であらねばならぬ。小にしては郷土の最高学府の一角、大にしては新興日本の光明を点ずる女性教養の道場たるべき使命の達成を希うや切である。それは偶然なしては望まれない。徒らに安易な花の香を匂わせるに汲々たる事なく過去に於ける家牙の塔の批判を反省して空論の人たらず実行者たらん事を、即ち校の下の労作をこそ進んで行い、之を以て法悦境に浮り得るゝ、ましき大和撫子の本領を発揮し、花持たぬ草々たる千歳の松の常緑にあやかれと念ずる。なお願うらくは礎石木となられし多くの先人に対し、永久に変りなき感謝真実の表示こそ、女子大校風の香りたらんことを願いてやまぬ次第であります（前者は熊本縣婦人会前理事長）

カリキユラム

新制大学の基礎案に基いて、本学に於いても下記の如くカリキユラムが定められた。本学は現在文科、生活学科の二学科が設置されているこれは第三学年度から学科の選択によって文学科においては、英文学、國文学に、生活学科においては、保健、栄養、調理、被服、育児等の学科についてそれぞれ専門的に進む予定である。本学における一般教育科目は次の通りである

人文科学関係
哲学、倫理学、心理学、美学及美術史、文学、歴史学、宗教学、外國語一（英語）、外國語二（独語又は佛語）

社会科学関係
法学、社会学、経済学、家政学、統計学

自然科学関係
数学、物理学、化学、生物学、生理学

増加科目
育児概論及び育児史、音楽実技

また生活科学に於ける学科内容は
家政学概論、家政管理学、家庭経済学、食物学概論、住居学概論、被服学概論、児童学概論、生理学、栄養化学、食品学、食品化学、微生物学、保健概論、家事物理学、燃料学、調理科学、調理科学及び調理実習、食品加工学、食品加工及び貯蔵実習、食物栄養学、住居概論、住居史、食生活文化史、共同炊事、食糧政策、園芸実習、図案製作及び美術鑑賞、被服原料学、繊維理学、紡織学、色彩学、服飾美学、被服工作概論、同実習、被服管理概論、染色学、被服商品学、意匠学、住居設計及び装飾、衣料政策等である

次に文学科における学科内容は、言語学概論、国語学概論、英語学概論、国語発達史、英語修辞学、国語音韻学、英語音声学及び音韻学、ラテン語、実用英語、英語学演習、国語学演習、文学概論、国文学特殊研究（一）（二）（三）、欧州文学史、国文学史、国文学概論、国文学作品研究（一）（二）（三）、國文学史、英文学史、米文学史、中國文学史、中國文学講読、英米文学作品研究（一）（二）、英米文学特殊研究、英米批評文学、英語概論、演劇概論、英米文学演習、國文学演習、西洋史、西洋文化史、英米史

教職課程科目
教育学概論、教育史概論、教育社会学、教育心理学、教育方法論、教育実習等

体育関係科目
健康教育論及び体育理論、体育実技

その他卒業論文
各学科における履修最低単位数一二四、但し一般教養、専門科目、体育科目、実験実習及び卒業論文をも含む

なお教養科目、専門科目の関係については、平行式が採用され両科目は同位置行する。従つて二年修了も可能なわけである

同年十一月には文部当局並びに、市民英語、米國文学の研究が始り、生活科学科の面では、阿蘇地方の栄養調査、ビタミンB2の細菌学的定量研究を実施するとともに、遺傳学の横成九大名誉教授田中義麿氏並びに新進の体質学者中山助教授の下で、遺傳学、体質学の研究調査が進行中である

やがて新校舎に移り、施設万端ととのえば、学生の研究意欲はたかまり、その成果もよいよあがることであろう

本学の沿革

溯ること三十年

本大学が西日本随一の女子最高学府として教育県熊本の誇りを負うて開校されるまでには過去三十年にわたる県民の歴史が綴られている。それは具体的には大正十年熊立第一高女の上に併設された専攻科と之れを改めて十四年から設けられた高等科との沿革に端を発する。もとゝ独立女子高等教育機関への伏線として発足した三ケ年制の特別科として当事者は最初から現かに併設を記すべき準備に苦心したのであるが、希望の曙光は容易に恵まれなかった。特に昭和六年先覚女性と高等科関係者との熱心な熊本女専創立運動が遂に失敗に帰した以降は、逆に女子高等教育庭園の空気の中に事毎になやみ続けて來た当事者の苦衷については今は知る人も少ないであろう

終戦となり新憲法の下に女性の地位向上が約束されるに及んで長年の要望は初めて日の目を見るに至ったのである。有識者の現成会一の女子最高学府として結成と県会の理解と協賛と相俟って、高等科本來の意願たる発展的解消の線に沿い、昭和二十二年春熊本縣立女子専門学校は発出度く誕生した。校長には北村直躬博士を迎えて、英文科、生活科、被服科の三科三年制とし、百三十余名の入学者があった

時あたかも本邦教育制度の全面的改革に際会し新制度による女子大学設立の要望が縣市民の間に澎湃として起るにいたった。二十二年十月の縣会は女専を女子大学に昇格することの建議案を満場一致で採択し、翌二十三年五月には熊本女子大学設置準備委員会が設けられ、七月には大学設置認可申請書を提出、九月には熊本城頭の現在の校舎に移り一路昇格への歩を進めたのである。この間縣当局、北村校長以下教職員、生徒父兄の活動はもとより市当局、婦人團体等の協力支援とあいまって、急速にその計画準備は充実されていった

高まる研究熱

文学科、生活科学科併せて約九十名の学生は、現在主として一般教育の課程を修め、専門学科と並行する社会人としての教養にいそしんでいるが、將來、文学部に於ては、英文学、國文学等の選択に向い、生活学科では、生活科学一般に進む関係上、早くも専門的研究がめばえている。即ち國文学方面では、斯界の横成森本治吉教授の指導の下に、万葉集その他古典の研究にのり出し、英文学では、市民英語、米國文学の研究が、大学設置委員の実地調査が行われ数次に亘る厳格な審査の結果本年三月二十五日、文部大臣の認可を経て、三月二十五日、文部大臣の認可をみるに至り五月二日栄えある入学式が挙行されたのである。

初代学長には北村博士が引続き任命され、四年制度の下に生活学科文学科の両学科を置き、両学科とも定員四十名宛の募集に入学者は計八十九名、その他約十名の聞き編生を収容して、この新しき学園は力強く出発をしたのである

熊本女子大学として名実ともに充実したものとなすべく、本学に寄うるものは、各方面に亘り続々新知見を吐露し、本学の躍進を深めゆく努力を致さねばならぬ

渡米資格の緩和

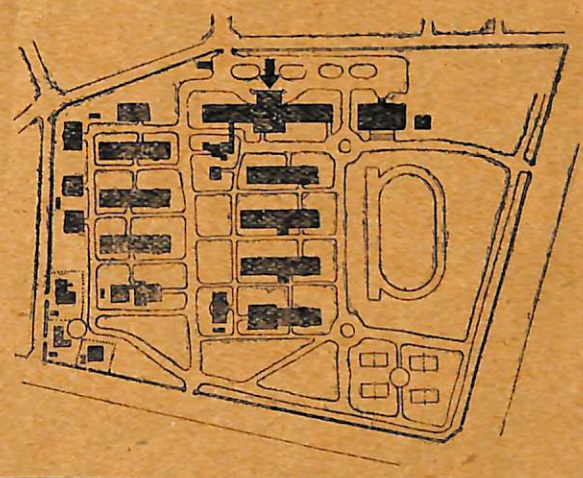
さきに米國政府の好意により明年九月から一年間米國に留学する者の資格を次の如く発表された。

一、日本の大学（女子の場合は女子大または専門学校）の卒業者または明春卒業予定の者
一、一九五〇年一月一日までに満三十五歳をこえない者
一、英語を読み、書き、理解し得る者
一、健康な者

これによると、男子の場合は旧制大学の卒業者「明年三月卒業の見込のもの」となっているが、女子には特に旧制専門学校の卒業で資格を與えられることとなり、出願範囲も広まり真に女子学生にとっては朗報というべきである。本学においても十二月一日より九大で施行される英語試験の受験希望者がみられる

新校舎いよいよ着工

かねてより縣案中であった新校舎設立の件は、いよいよ二十四年度より三ケ年計画で、左の設計図により適地を求めて着工される運びとなった。総二〇〇〇坪、四、四〇〇万円の予算の中、本年度建設分は本館の七〇七坪、二十六年度までには、体育館、図書館、音楽室等の特別施設も建設される予定で、学生等の期待も大きい



よい型・よいラシヤ・よい仕立
◆角帽なら専門の◆
角田帽子店
熊本市下通町一丁目
電話1021振替熊本1314

大学 高専 女子大 服受註所
カジハラ
…創業明治二七年…
上通町中央・電話八八番

皆様の服生地・仕立は！
各大学高専・高等学校制服指定
武本洋装店
上通町四丁目・TEL.2208

日本人より実践的

中國婦人について語る内山完造氏

中國在住四十年、上海に内山書店を経営し、内外の文人に親交あり、上海事変等の著書で有名な内山氏の來熊を機として、学友会では同氏を招き「中國女性について」の演題で十月二十九日午後一時より講演会を催した。

瀟洒な中國服装をまとった氏は、辛亥革命は弁髪革命であり、蔣介石の革命は纏足革命であると説きおこし、從來労働しない特権階級の象徴であった纏足は堕落して、中國婦人の心身を束縛するものとなっていたのを廃止した為に、中國婦人は自由を知り、地位を向上するに至ったと述べ、更に中國に於ける児童の養育法が全く成人を標準とした厳しい束縛であって、中國婦人はこの事を体得し、無意識に実行した。

この間、氏は中國生活の実例を興味深く織り込まれた為、來会者一同聴く事を知らなかった。ついで別室で來賓職員学生生徒有志を交えて座談会が開かれた。席上氏を中心として、経済貿易文化社会の各方面にわたり熱心な質疑応答があったが、氏はその豊富な体験に基いて、中國人の性格は実践的で決して、一本調子でなく、一見形式的に見えているが、反て日本人の場合よりも実質的であり、中國人の生活は原理と原法の二本立であってこれを餘日に割り切ろうとすると、とんだ失敗をすると説明した。午後四時散会した。

秋風にのって羽根も軽やか…

創立当初にしては、学校側の理解で用具は大体揃っている。テニスにしてもこの場所の狭いのが難点で、相当の技術者も揃っていると云へるかも知れない。運動熱が場所の狭さにはばまれている感である。したがって、余り場所の制限を受けないバドミントン、スケエアダンスは正科に迄とり入れられて、なかなか繁昌している

(写真はバドミントン練技風景)

学生自治会の顔ぶれ

学外との横の連絡機関としても自治会結成が急がれていたが、夏期休暇に入る七月十日に、全員集会して、委員を選出し学生自治会の結成をみた。その席、全國女子大学、専門学校の協議会に出席した綜務より経過報告があった。なほ委員は次の如く決定した。

委員長　上田みそら
副委員長　高田博子、荒木不二子。

秋色を探る

一京阪見学の記一

十月廿四日　デッキの潮風は心地よく、「にしき」丸船上に溢れる女子大生のコーラスも和かだ。午後三時半、秋の陽まぶしい別府湾を船出後、直ちに船は、ヒステリー的で、それを治内を見学し、闇に点滅する燈台の灯をながめ、旅路の身をしみじみと感じた

同廿五日　午前十一時神戸着、海からそよ吹く風の感覚は、熊本では得られない。神戸は群判ほど美しい街ではないが路ゆく人には、どこか都会のふんいきがある。デュラルミン街は屋根が輝き、元町通りはパッと花が咲いた感じだ。午後三時近く、懐のは、嵐山の清流であろうか。午後は江馬風俗研究所を訪うもの、宇治の平等院と廻す人達もあった別に街頭研究組は、「京都のお菓子は、種類が多くおいしい。男性は女性に対して礼儀正しく、商人も丁寧だ」と報告する。何れも熊本を暗に比較している

同廿六日　御所拝観後、同志社大学に向う。パイプオルガンの荘厳に旅の身を忘れた。ついで同志社の学生との交歓茶話会に出席、一寸は千古の想いにみたされる

同廿八日　正式の祭典見学だ。春日山のスロープに更めてる。万葉植物園は生きた万葉辞典だ。大阪八尾の奈良をへて、法隆寺を訪てる。同寺は目下手入れ中で群しくは拝観する由もないが、夕陽に、黄昏に、夢の如く浮ぶ名刹に来すれば、心清と三々五々道頓堀、心斎橋へ向われない元気さがある

就業振わず

今夏アルバイトの実態

暗い世相の影響を受けてか、今年度夏期休暇中のアルバイト就業率は前年度に比して、約五割程に過ぎない。又その報酬も前年度を下廻る有様で、すべての点において、以前の様な活潑さは見られない。七月末、厚生課において求人届出が出されたが、保険、行商、給仕の類で紙面にのぞ入る学生の割は暗い

次に主なる就業先を挙げると、郵廳、勧銀、保険会社、給仕、家庭内職であり、その就業率は郵廳六〇パーセント、勧銀二十パーセント、給仕五パーセント、家庭内職八パーセントその他になっている。さらに開学がおくれたため授業が休暇に喰込んだこと、就業不振をもたらした傾きがあるかもしれない

した頃は、さすがに古都に來た感慨を新にさせる。

腕を組んで歩く若い男女の狂想曲に時流の動きを認識するのも收穫の一つだ

同廿六日　本格的なお上りさんとなり、観光自動車で東本願寺智恩院、二條離宮、博物館、嵐山と引つぱり回される。例の賞賛の感下

同廿七日　御所拝観後、同志社大学に向う。パイプオルガンの荘厳に旅の身を忘れた。ついで同志社の学生との交歓茶話会に出席、一寸は千古の想いにみたされる

同廿八日　正式の祭典見学だ。春日山のスロープに更めてる。万葉植物園は生きた万葉辞典だ。大阪八尾の奈良をへて、法隆寺を訪てる。同寺は目下手入れ中で群しくは拝観する由もないが、夕陽に、黄昏に、夢の如く浮ぶ名刹に来すれば、心清

筑紫野をゆく

万葉研修の旅

御笠森

森本教授の提案で二日市地方の萬葉研修旅行を計画されたが結局都合により希望学生拾四名がこれに参加した。九月十一日早曙、雨雲の低くたれこめた日であった。

念はぬを思ふといはば大野なる三笠の杜の神し知らさむ　巻四

昔は太宰府の前駅として随分と賑ったであろう雑草園の淋しい停車場におり立ち東北に二丁程田圃を眺て、遥か大城山の方を眺めると田の中にぽつりと杜が見える

水城

丈夫とおもへる吾や水茎の水城の上に涕のごはん　巻六

おほならば左も右もせむを恐み振りたき袖を忍びてあるかも

森の中の大木が茂り雑木雑草を分けて入ると稚った栢葉の上に一つの小さな石祠があって昔の杜の名残をとどめている。昔は大樹鬱蒼として三方村に亘った大森林で萬葉人の多くはこの杜に参詣して

水城駅の近く雑木の茂った小高い堤防が街道を横ぎって右に左に眺められる。その昔太宰府の防備として御笠川の断層地帯に築かれた長堤で総長五百六十間、高さ五間余にも及んだとこの水城も今は高さ三間の平凡な土手にしか過ぎなかった。先にかいげた旅人、児島の二首を口ずさびながら惜別の情やるかたなき二者の相聞に思いを馳せたのである。

観世音寺

今を潮る千二百五十年、天智天皇の御母斉明天皇御追福の為創立され、伽藍金堂法壇別院等当時は随分と宏麗な名刹で日本仏教の淵源の一つ百を口ずさびながら惜別の情やるかたなき二者の相聞に思いを馳せたのである。

観世音寺

今を潮る千二百五十年、天智天皇の御母斉明天皇御追福の為創立され、伽藍金堂法壇別院等当時は随分と宏麗な名刹で日本仏教の淵源地大陸文明輸入の中枢地であったと云われる。大城山を背景に中央に伽藍堂左に金堂石に鎮座の観世音像を初め不動尊、十一面馬頭観音像多く、何れも多くの万葉人の真情溢れた作品であろう様を偲び興味ある研修旅行を終った。思うに萬葉集のもつ芸術性を新なる観点より解釈し直されて萬葉集が鎌倉の書、人間の歌として文化の発展に寄与し世界文学として占める位置を予想する時今回の研修旅行が如何に意義深いものであったかを痛感する。今後もこの様な機会に恵まれる事を願んでやまない。

× × ×

草

○ひに暗き闇に寒き手を出す夜半の小雨の湯ったまま、
に
○星深く稲田にうもれ蛍取れるおうなの影みえ生き食の日
○一定のリズムなもちて走り寄りし暗夜の列車すれ違わむ
とす
○西空にまわりゆく鳥の近づかむ金峯山に集たむろせり
○ひそやかに一熟さ「まれ」と胸をおほふ双掌に聞う肋骨
高し
○秋深き日夜に守るパスキンの裸画現の働哭に似て
○人生は複雑なりと大人は云うそれ故純粋に生きむと云う
に
○もろこしを一葉ちぎりてなつかしき人のなりわひ振ひつ
へ行く

泳

(歌会より)

プロフイール

徳永郁介教授　京大卒、哲学概説担当。学内学外多方面のお世話に忙しい。美学、ルネッサンス等に関する著書がある。

田代四郎教授　東大卒、独文学概説担当。頭のあるい学生も先生の名講義には貴をかしげる者もいまい。現在教育部長に御就任その方面にもおにしい。

山田晃教授　九大卒、農芸化学方面概説担当。学内を歩いていると何見かけともなく拳の音がする。音のまにまに歩いて行ったところは先生の拳の前。御趣味はギター、音楽部、又写真部の顧問である。

永松定教授　東大卒、京文学概説担当。遠くから御噂は高い都での文学講演のあい間に現れるのは貴きものである。

宮島眞一教授　東大卒、哲学教育概説担当。厳重な学風で、学内では最年輩の仲間である。前任地は鹿島高等。西洋哲学史要綱、認識論等の著書がある。

柿村峻教授　東大卒、哲学概説担当。ノッポで何時も童顔の微笑の消えたことがない。前任校も女子高等。「ある外科医の記録」の御著作もある通り、外科方面での名医である。

内田辰雄教授　九大卒、概説担当は保健衛生生理方面。前任地は東京女子医専。「古代中國哲学史」の訳書がある

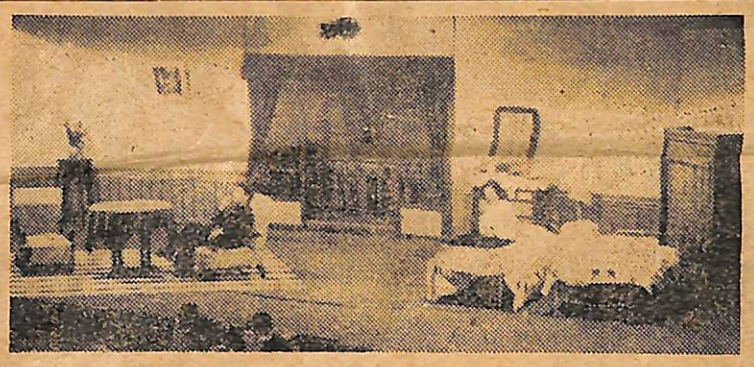
向井菊代講師　九大卒、英文学概説担当。文学研究室での紅一点は先生である。家庭と教職とどちらがお辛いかきたいことはないが……。

マリオン・イ・パット女史　アメリカ、コーニル大学文学部御出身。女史は現在九州女学院に御勤務である。この程講師として御迎えすることとなった生の英語によって一そうの上達が期待されている。

大學延長講座開催

本学では社会の要望に添うべくかねて講座の公開に努めているが今般九州女学院文化協会に対する後援を兼ねて、同協会の文化講座を左の通り本学教授が担当することになった

一、當春講座「食べ方の科学」



コンクール

第三回演劇「燈台」優勝

本年六月十二日例年の如く歌舞伎に於いて、第三回学生演劇コンクールが行われたが、本学はその第一回の「おさくろ」も好評一席に入賞し、今回に於いても「燈台」三島由紀夫作「青き第二の母」と、復員せる大学生の息子と妹ある父親との微妙な三角関係を描いたものを演じ優勝し、各々演劇部の「検察官」において活躍した女子大学の高田等服切ったメムバーがひかえているから心強い。写真は「燈台」のシーン

村(仕三)に演技賞が授与された本学としての出演は最初であったが、第一回以來、女職の名のもとに、上田、中村、高岡、石淵等夜陸に於いて、第三年の講演が活潑し、初演「郭公」はその熱でかわれ、コンクールの第一回での「おさくろ」も好評

今回に於いても「燈台」三島由紀夫作「青き第二の母」と、復員せる大学生の息子と妹ある父親との微妙な三角関係を描いたものを演じ優勝し、各々演劇部の「検察官」において活躍した女子大学の高田等服切ったメムバーがひかえているから心強い。写真は「燈台」のシーン

期待される合唱部

久しく待ちのぞまれていた合唱部の発足は、四月新学期より、笹原イネ先生を迎え、部員募集による本格的練習にうつった。八月廿八日シーロス会場で開催せられたゲーテ百年祭に、ゲーテの詩の香りゆたかな原語合唱を公開し、漸くその軌道にのった。また九月十八日の本学主催文学講演の際にも発表した。日尚浅く練習未しの感はあるが、將來女子大の行事には必ず合唱部の活動を見るようにありたいと願う

YWCA新に発足か

本学に於けるYWCA会員は現在のところ二十数名で、さっぱかながら着実に活動しているが、去る九月五日東京より学生主事、武田清子女史の來学があり、先きにセイロン島で催されたアジヤ学生指導者会議の報告と、本学の正式加盟申請に対する調査が行われ、目下その手続中。本格的活動はそれ以後となろう

雑報

栄えある入選者

かねて熊本縣と熊本日日新聞社との共同主催により、「縣政のあり方」の論題のもとに懸賞論文募集中のところ、十月末入選者の発表があったが、本学より飯田昌子が「熊本縣の畜牛政策を論ず」で二席に、相良ミヨ子が「櫻井醸業四ケ年計画の焦点」で三席に当選した

山田晃氏(十月第二、第三木曜日午後、十一月十二月第三、第四木曜日午後、於本学)

一、文学講座「近代日本文学論」

廣田正知氏(十一月十二月第一第二木曜日午後、於本学)

尚十一月初めから十二月にかけ地方の各主要地で講座を開く予定である

後記

此の四月から開学され、編集はもとより、学友会の活動もやや整ってきたが、新聞部は社会研究部内の一つとして、興味をもつ有志が集まり、何等かのかたちで学内活動の紹介をまとめたいと熱がれていたのであるが、こゝにひとつ先ず本学内容の紹介をも兼ねて、ニュースを発行することになった。この方面にかけては未熟なものばかり、手さぐりのかたちで進行させていったから、不備の点は多々あることとながら、まがりなりにも出來上ったものをみるとほっとせざるを得ない。号数を追うにしたがい、内容も編輯技術も、向上するよう努力してゆくつもりである

(H)

秋の机辺に贈る・・・・

南原繁　母 Amor omnia vincit
白水社　チボー家の人々
美術出版　洋画技法講座
デュアメル　未來生活風景
弘文堂　アメリカ紀行
研究社　哲学とは何か
天野貞裕　簡易英英辞典
阿部行蔵　如何に生くべきか
服部之総　近代日本のなりたち
演劇雑誌　月刊テアトロ
トーマス・マン　魔の山
東大出版部　きけわだつみのこえ
熊本・上通　金龍堂

婦人服地・化粧品・装身具類
キクヤ
上通町四丁目・TEL.633

本の御用は
新刊図書　金書堂
上通町・電話九四四番